

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3790500023
法人名	医療法人 深田記念会
事業所名	グループホームスマイル
所在地	香川県観音寺市村黒町750番地 (電話)0875-23-2235

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年5月16日	評価決定日	平成21年6月18日

## 【情報提供票より】(21年4月20日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	19年	6月	18日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	16人	常勤	13人	非常勤 3人、常勤換算 14.4人

### (2)建物概要

建物構造	RC 造り
	5階建ての1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	18,000円+実費	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

### (4)利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	12名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.2歳	最低	72歳	最高	92歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人深田記念会 松井病院・医療法人社団泰公会 小野歯科医院
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住み慣れた地域との関わりを重視し、認知症の改善や在宅復帰を目指し、「体すこやか、脳いきいき、笑顔きらきら、いつまでも」を実践するため、毎日の散歩や脳リハビリなどを日々の生活に取り入れてグループホームの在り方を追求している。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、日常ケアや言葉かけに配慮したり、一人ひとりの希望に沿った生活ペースと個別の力を活かしたスケジュールは生活にメリハリをつけている。職員は観察や情報を共有して潜在している力を引き出せるように働きかけたり、一緒に過ごしなが見守り支えあう関係を作っている。開設して2年が経過したが、管理者や職員はサービスの質向上に努力して利用者が安心した生活が送れるように取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題であった自己評価票の記入に関しては、各ユニットごとに共有の視点を持ち意識して改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価では、各ユニットで項目ごとに職員が意見交換をして、自己課題や改善策などにもユニットの特徴や表現の違う記入があり、一連の過程において前向きな姿勢で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4・5・6)</p> <p>運営推進会議では、グループホームの現状報告をしたり情報交換、利用者代表や家族が意見や思いを伝える機会を設けている。回を重ねるごとに会議メンバーから率直な意見をもらい、課題ができ改善に向けてサービス向上に活かせる会議の持ち方になるように取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情箱の設置や、家族の面会時には利用者の近況報告をしたり、意見や不満・苦情が聴けるような環境や雰囲気作りに配慮している。家族のアンケート調査も実施し管理者、職員は意向にそえるように共有して運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の祭りや老人会、自治会などの行事への招待があれば参加している。また、毎日の散歩では近隣の人達と挨拶を交わしたり、保育園に立ち寄り休憩させてもらったりして楽しい時間を過ごしている。利用者のペースや意向に沿いながら地域との交流を深めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わりを重視した、法人の理念と事業所としての趣旨を掲げているが、日常的に表現した「体すこやか 脳いきいき 笑顔きらきら いつまでも」は、利用者の暮らしを支えていくサービスのあり方を示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で理念を唱和し管理者と職員で共有している。利用者のその人らしく尊厳ある暮らしを意識して、日々のケア場面で具体的な理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭りや老人会、自治会などの行事への招待があれば参加している。また、散歩では近隣の人達と挨拶を交わしたり、保育園に立ち寄り休憩させてもらったりして楽しい時間を過ごしている。利用者のペースや意向に沿いながら地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価実施の意義を理解し、自己評価では各ユニットで項目ごとに職員が意見交換をして作成した。前回の課題である各ユニットの特徴の表現にも職員の意向を取り入れ、一連の過程において前向きな姿勢で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの現状報告をしたり情報交換や利用者代表や家族が意見や思いを伝える機会を設けている。回を重ねる毎に会議メンバーから率直な意見をもらい、運営推進会議がサービス向上に活かせる会議の持ち方になるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や地域のボランティア活動の参加、脳リハビリ教室への案内など、市職員と行き来する機会や馴染みの関係を作り、相談や意見交換をしてサービス向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりなどを担当者が手紙に書き「スマイル新聞」と一緒に報告している。家族の面会時には近況を知らせたり、緊急時には電話報告をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱の設置や、家族などの面会時に意見や不満・苦情が聴けるような環境や雰囲気作りに配慮している。家族のアンケート調査も実施し管理者、職員はそれらを共有して運営に反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者と職員との馴染みの関係を大切にするため、異動は最小限に抑える努力をしている。ユニット間の異動は、散歩などの共有時間で関係作りができるように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員育成のため、法人内外での研修会受講の機会を設けている。各ユニットでリーダーを作ったり資格取得を奨励したりして、職員の役割や経験に応じた段階的な育成に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他法人の同業者から研修の依頼を受けたり交流する機会を持っているが、ネットワークづくりやお互いに勉強会をしたりする取り組みにまでは至っていない。</p>	○	<p>他法人の同業者は、毎日の外出支援や脳リハビリなど実施に関して具体的に教わりたいことが多くあると思う。ネットワークづくりや勉強会、意見交換は管理者や職員が交流することでサービスに関する視野や質に対する意識付けの変化が期待できる。同業者を含めた質向上のため更なる取り組みに期待したい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の意向を大切にしながら納得してサービスを利用するために、施設見学や体験を実施して早く馴染めるように環境や雰囲気に工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや、掃除の仕方など人生の先輩として利用者から生活の知恵を学んだり、一緒に笑ったり励まされたりして穏やかな生活を支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中でさりげなく利用者との会話をし、何がしたいのか、何が食べたいのか、どこに行きたいのかなど、利用者の視点に立った思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成には、本人や家族の意向を聞き、必要に応じて関係者や職員は意見交換をして介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、介護計画の見直しが生じた新たな状況変化には、本人・家族・関係者や職員が話し合い、現状にあった介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の付き添いやお墓参り、買い物など、本人・家族の要望に応じ柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、契約時に本人や家族の希望を聞き主治医を決めている。本人の状態や緊急を要する対応には専門医や協力病院と連携を取り適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針を踏まえて、契約時に重度化や終末期のあり方について本人や家族などに説明している。また、本人や家族、主治医、事業所間で話し合い、状態や希望に応じて方向性を決め支援できるようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言葉かけや対応を重視し、「ケア改善委員会」や職員同士で話し合い改善を行っている。記録や個人情報の取り扱いにも十分配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活スケジュールは有るが、個人の適応にあわせた散歩や脳リハビリなどの時間や、一人ひとりの希望にそったゆったりとした時間などメリハリのある生活を大切にして、その人らしく暮らせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや力を活かしながら、当番で食事の準備や後片付けをしている。自分のコップや箸を使用して、職員と一緒にゆっくり味わいながら、食事をしたり会話を楽しむ時間になっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や希望にそって安全に入浴できるように見守り配慮している。週3回は提供できるようにしているが、毎日希望する人にも応じている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	脳リハビリのプログラムには、運動、ゲーム、歌、趣味的活動が組み込まれ、役割や楽しみごと、気晴らしの支援などが日常生活の中で自然に行われている。職員は観察や情報を共有して潜在している力を引き出すように働きかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩を日課に取り入れ、一人ひとりの希望や状況に合わせた散歩コースを用意して外出支援をしている。季節を感じながら地域の人々とも顔馴染みになり挨拶をしたり、随時買い物やドライブ、外食なども楽しんでいる。また、初詣やお花見など季節に応じた外出計画も実施している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践しており、出入り口の開閉時は音と光で知らせ、訪問者にはインターホンで対応している。職員は、利用者の行動や精神状態の変化を見守りながら安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は夜間を想定し年2回消防署の協力を得て行っている。隣接のケアセンターと合同で訓練を実施し応援できる協力体制を作っている。	○	今後の更なる取り組みとして、災害に備えた非常用備蓄品の準備を検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の管理栄養士からのアドバイスを受け、栄養バランスを考慮して作成している。食事摂取量や水分量の確保については、声かけをしながら職員が把握に努めている。お茶は自由に飲水できるように用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、それぞれの機能や目的に合わせた家具や備品を配置し、不快な音や光・臭気などの無いように環境に配慮している。ベランダからの眺望は、自然に季節が感じられる。また、畳やソファ、ベンチは、利用者の状況や気持ちにそって過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札を目印に、利用者の好みに合わせ畳かベッドを使用している。使い慣れた思い出の小物や手作りの作品、家族の写真等を飾り利用者の居心地の良い居室作りをしている。		